

オスプレイ離陸強行

沖縄米軍那覇軍港から3機



米軍那覇軍港から飛び去る米軍のMV-22オスプレイ=30日午後1時30分ごろ、那覇市

城間市長「市民の安全脅かす」

市に陸揚げされ、たMV-22オスプレイ3機が30日、離陸しました。沖縄県や那覇市が市街地や那覇空港に隣接する同軍港でのオスプレイ等の飛行を行わないよう求めていたにもかかわらず、強行されました。

正午ごろに2機が相次いで飛び立ち、午後1時半ごろ、残りの1機が離陸しました。離陸を受け、那覇市の城間幹子市長は同日、同軍港での「軍用機の離着陸は、市民、県民および多くの観光客など

米軍那覇軍港（那覇市）に陸揚げされ、たMV-22オスプレイ3機が30日、離陸しました。沖縄県や那覇市が市街地や那覇空港に隣接する同軍港でのオスプレイ等の飛行を行わないよう求めていたにもかかわらず、強行されました。

正午ごろに2機が相次いで飛び立ち、午後1時半ごろ、残りの1機が離陸しました。離陸を受け、那覇市の城間幹子市長は同日、同軍港での「軍用機の離着陸は、市民、県民および多くの観光客など

の安全を脅かすもので到底容認できます。今後このようないじ事が一切行われないことを強く求めます」とする声明を発表しました。

同軍港には、19日にM-V-22オスプレイ3機が飛来。23日に船に積み込まれ、その後、米本国に運ばれています。今回離陸した3機は、本国へ輸送された機体の代替機で、25日に陸揚げされているのが確認されました。

県は25日、同軍港から飛行しないよう沖縄防衛局に強く要請。オスプレイ等の同軍港への飛来について謝花喜一郎副知事は26日に、城間市長は29日に、それぞれ沖縄防衛局の小野功雄局長らに抗議し、同軍港でのオスプレイ等の離着陸を一切

行わないよう米軍に働きかけました。

基地の使用条件を定めた「5・15メモ」で同軍港の使用条件は「港湾施設および貯油所」とされており、日本共産党的渡久地修羅議団長は、同譲進の「国約外使用は許されない。那覇軍港は無条件撤去を」と述べました。